

会 議 報 告 書

件 名	前橋市アーバンデザイン策定に係る第2回策定協議会について																											
日 時	令和元年5月20日（月） 午後3時00分 ～ 午後5時10分																											
場 所	中央イベント広場																											
出席者	<p>前橋市アーバンデザイン策定協議会委員</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">共愛学園前橋国際大学</td> <td style="width: 33%;">学 長</td> <td style="width: 33%;">大 森 昭 生</td> </tr> <tr> <td>前橋工科大学</td> <td>准 教 授</td> <td>杉 浦 栄</td> </tr> <tr> <td>前橋商工会議所</td> <td>事務局長</td> <td>村井誠志（宮下学氏の代理）</td> </tr> <tr> <td>前橋商工会議所青年部緑水会</td> <td>代表幹事</td> <td>遠 藤 宗 司</td> </tr> <tr> <td>前橋青年会議所</td> <td>理 事 長</td> <td>吉 田 雅 則</td> </tr> <tr> <td>日本建築家協会関東甲信越支部群馬地域会</td> <td>代表幹事</td> <td>小 林 光 義</td> </tr> <tr> <td>都市再生機構東日本都市再生本部まちづくり支援部</td> <td>部 長</td> <td>折 田 茂 穂</td> </tr> <tr> <td>水辺総研</td> <td>代 表</td> <td>岩 本 唯 史</td> </tr> <tr> <td>HAGI STUDIO</td> <td>代 表</td> <td>宮 崎 晃 吉</td> </tr> </table>	共愛学園前橋国際大学	学 長	大 森 昭 生	前橋工科大学	准 教 授	杉 浦 栄	前橋商工会議所	事務局長	村井誠志（宮下学氏の代理）	前橋商工会議所青年部緑水会	代表幹事	遠 藤 宗 司	前橋青年会議所	理 事 長	吉 田 雅 則	日本建築家協会関東甲信越支部群馬地域会	代表幹事	小 林 光 義	都市再生機構東日本都市再生本部まちづくり支援部	部 長	折 田 茂 穂	水辺総研	代 表	岩 本 唯 史	HAGI STUDIO	代 表	宮 崎 晃 吉
共愛学園前橋国際大学	学 長	大 森 昭 生																										
前橋工科大学	准 教 授	杉 浦 栄																										
前橋商工会議所	事務局長	村井誠志（宮下学氏の代理）																										
前橋商工会議所青年部緑水会	代表幹事	遠 藤 宗 司																										
前橋青年会議所	理 事 長	吉 田 雅 則																										
日本建築家協会関東甲信越支部群馬地域会	代表幹事	小 林 光 義																										
都市再生機構東日本都市再生本部まちづくり支援部	部 長	折 田 茂 穂																										
水辺総研	代 表	岩 本 唯 史																										
HAGI STUDIO	代 表	宮 崎 晃 吉																										
協議目的	前橋市アーバンデザインの策定にあたり、効果的で実行性のある計画とするために、地元関係者や専門的な見地をもった学識者等からなる策定協議会に取り組み状況を説明し、意見を聴取する。																											
趣 旨	<p>1. 開会</p> <p>2. 自己紹介等</p> <p>3. 議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より説明を行った後、意見交換を行った。 <p>意見交換の概要</p> <p>○全体の長期プランについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口密度を具体的にどう上げるのかという議論が必要。容積率を緩和するという議論になりがちだが、本来は数の議論ではなく、密度の捉え方が重要である。前橋が他の街と比べて、ゆったりと心地よく住める街という風に考えた時に、空が広いとか、風が吹いているとか、そういったことが大事だと思う。やみくもに再開発や民間の住宅開発を行ってしまうのは、前橋の潜在資源を損なってしまう可能性もある。体感的な密度を上げるということであれば、空き地や空き家を活用して、実体験での密度を上げる方が大事だと思う。 ・住む場所はあえて高層にする必要はないし、リノベーションなども良いと思う。それが街の魅力だと思う。 ・街中に住むということが、どう生活の豊かさをもたらすのかという視点が欲しい。 ・中心市街地に住む魅力について自信を持って提案していくことが重要。 ・区分所有が増えるのはあまりよくないと思う。集合住宅の合意形成をとるのは大変だし、事業者が売り払った後にいなくなってしまう。住宅政策と連動できると良いと思う。 ・道路空間の一部を民間利用につなげていく仕組みやプロセスにより道路の上に商業環境をつくって、営業行為をしていいというのは、地域全体での合意形成がないと難しいと思う。社会実験を行い、合意形成につなげていくなどが重要だと思う。 ・前橋は、住むというより訪れるまちとしてのイメージの方が大きい。住む人は、誰を想定しているのかが見えるともっと良いと思った。 																											

○デザインガイドラインについて

- ・ガイドラインをつくっていく上で、地権者とイメージの共有をしなくてはならない。関係する商店街や通りの地権者がこういった責任があって何を守らなければならないのか。といったことがまだ共有されていない状態で、ガイドラインを出すのではなく、ボトムアップ的にガイドラインが出来上がってくるのが望ましい。
- ・ガイドラインが一般化され過ぎていると思う。何を前橋の強みとしてやっていくのかという議論がまず必要。
- ・ガイドラインに出てくる写真のほとんどが、海外や他都市の成功事例のものになっている。目で見えてくる情報がどうしても多いので、絵で示す方が良いと思う。具体的なものが入りすぎてしまうと、こんなの無理だろうという風に頭から思ってしまうようになってしまうと思う。前橋らしさをもう少し加えた方が良いと思う。
- ・再開発などの計画を進めていく中で、デザインガイドライン等の方向性があると分かりやすくなっていく。点の開発だけではなく、面の開発を行う時にアーバンデザインがあってよかったなという風になるのではないかなと思う。
- ・色々な規制緩和して色々な商売ができるようにすると、アジア的な統一感のない統一感のような街になってしまう。そのときに初めてアーバンデザインが必要になってくるのではないかなと思う。稼げる街にするけども、無秩序な開発が進んでしまわないように、前橋のデザインを示すというのが、アーバンデザインに求められているものなのではないかなと思う。
- ・デザインガイドラインは表で一覧になっていると見やすくなると思う。
- ・デザインガイドラインはタイトルをつけてもっと具体化すると見やすいと思う。

○策定後の取り組みについて

- ・大きな投資がないと価値が作れないということではなく、自分たちでできることから少しずつ積み上げていった先に、大きな投資の話に繋がっていくイメージなのではないかなと思っている。少しずつ社会実験的に進めていった先に未来像が見えてくるというやり方がよいと思う。未来像を先にみせてバックキャスト的に進めるやり方もあると思うが、必ずしも最初からきれいなものを大きな投資をして作らなければならないということではなくて、ボトムアップで作りあげていくというやり方もよいと思う。
- ・公共空間の投資をしてつくるのではなくて、周辺の地権者と連携しながら、つくっていくことが重要。緑を守っていくことの主体的な責任は、公共空間を担う市役所にあるが、その周辺の地権者も同様に守っていくことが良いかなと思っていることが大前提となる。
- ・どういう風に前橋のまちづくりを進めていくかという議論になった時には、民間と行政が一体となって取り組み、民間の組織にある程度委ねていくことが必要になってくる。そういった活動がアーバンデザインと連動していくと市民にも分かりやすいと思う。また、そういった活動をどこまで行政が受け止めてくれるのかという部分があって、初めて街がよくなるのではないかなと思う。
- ・自分たちの街は、自分たちでつくる。街を使う人が街をつくってい

く、商工会議所も行政もそれを後押しするという仕組みをつくっていくのが一番。ニーズに応えるような取り組みが必要。

- ・ エリアマネジメントなど補助金に頼らないまちづくりがベスト。

○その他

- ・ どの自治体も苦しい状況ではあるが前橋の場合は、乱開発もないし、街の中には、文化や歴史があって、郊外には無いものがたくさんあるので、街中に住むメリットはたくさんあると思う。
- ・ 地域特性や生活スタイルがあってアーバンデザインが必要になってくると思う。
- ・ ナショナルチェーンを持ってくると最終的に税金は、みんな東京や、国外に出ていってしまうのでいいことだとは思わない。前橋の中で商売をして、儲けて、しっかりと税金を落としてもらう。これが地域の活性化のもととなる。
- ・ ひとりひとりが街の問題意識をかなり持たなければならないと思う。
（例えば）デパートが営業不振になって、撤退すると、行政が支えるということはよくある。昔栄えたデパートをもう一度復活するには、街の皆さんが使わなくなったデパートを使うようにならなければ意味がない。リニューアルしても延命が5年から10年になった程度の話にしかない。
- ・ アーバンデザインのツールとしての意味をどう詰めるか重要。新しい再開発が起こるときのデザインボキャブラリーをここで定義しておいて、道具を与えるような意味もあるとは思いますが、一方で、課題やリスクといった現実的な面が見えないので、オーナーや事業者がこれに賛同するモチベーションのインセンティブを盛り込んでおかないと使えるものにならない。

5. 閉会